

## 2. UH—1での医療活動

### 1)UH—1への医療資機材搬入

- (1)医療資機材とは  
心電図モニター(プロパック)、人工呼吸器(LTV)、輸液ポンプ、固定用ベルト、バックボード、救急処置用バック、酸素ボンベ、ボンベ固定用バック
- (2)資機材の固定  
バックボードにモニター、人工呼吸器、輸液ポンプを固定用ベルトを用いて固定する。
- (3)資機材の搬入  
資機材を固定したバックボードを上段の担架に固定する。

### 2)UH—1への患者搬入

- (1)搬送用担架からUH—1の担架へ患者を移動(縦移動)させ、患者を担架ベルトで固定する。
- (2)誘導員の指示に従い、ヘリ入り口に垂直に移動し姿勢を低くしアプローチする。  
(※後方はローターがあるため危険、誘導員の死角になるため。)
- (3)頭からUH—1に搬入し、担架の足を一旦床に置き、隊員が乗り込む。  
中と外から担架移動を行う。コミュニケーションはジェスチャーにて行う。  
担架の移動時は、機内の壁・床等を破損しないようにゆっくり移動する。  
(※ヘリコプターの装甲は薄く穴が開きやすい。)
- (4)機内の隊員の指示に従い最下段へ担架を固定する。
- (5)受け持ち看護師・調整員は固定の確認を行う。(4箇所の確認)
- (6)医師は患者の頭部側に位置するか、機内自衛隊員との連絡調整のしやすい位置に居る。看護師は患者の観察、機器類の操作のしやすい位置にいる。調整員は医師・看護師の補助を行う。

### 3)患者の状態把握

- (1)受け持ち看護師は患者のバイタルサインをチェックし、リーダー医師へ報告する。
- (2)リーダーは搭乗者名簿を機内自衛隊員に提出し患者名の確認をする。  
患者状態を把握し、機内自衛隊員に報告、フライトプランの確認をする。騒音等で会話が難しいときは、筆談またはジェスチャーにて行う。(患者の状況、飛行高度、速度、時間の確認を行う)  
情報をDMAT隊員に伝達し、離陸準備の指示をする。

### 4)離陸の準備

- (1)リーダーは患者の固定、資機材の固定、搭乗者のシートベルトを確認し、機内自衛隊員へ報告する。(ブロックサインで確認)
- (2)受け持ち看護師は患者を押えて振動と揺れを感じる状況が最小限になるようにする。  
声掛けを行い精神的援助に努める。

## 5) 離陸後

- (1) 機内自衛隊員の許可がでたら、受け持ち看護師は患者状態を把握し、リーダーに報告する。指示に従い行動し、立ったりしない。移動する場合は必ず何かにつかまり移動する。(※搭乗時に触れてはいけない場所の確認をする。例:黄色く印のある箇所)
- (2) 調整員は他メンバーに異常が無いことをリーダーに報告する。  
処置の補助・資機材の固定管理など行う。
- (3) リーダーは患者状態把握、メンバー把握を行う。必要に応じて機内自衛隊員に報告する。

## 6) 飛行中

- (1) 受け持ち看護師は適宜患者状態を把握し、必要に応じリーダーに報告する。
- (2) 調整員は資機材および担架の固定状況に異常がないか、確認する。  
バッテリー・酸素の残量など適宜確認する。
- (3) リーダーは患者状態把握、メンバー把握を行う。機内自衛隊員に飛行状況を確認する。

## 7) 着陸時

- (1) 受け持ち看護師は患者状態を把握し、リーダーに報告する。
- (2) リーダーは患者状態把握、メンバー把握を行う。
- (3) リーダーは患者の固定、資機材の固定、搭乗者のシートベルトを確認し、ロードマスターへ報告する。
- (4) 受け持ち看護師は患者を押えてGを感じる状況が最小限になるようにする。

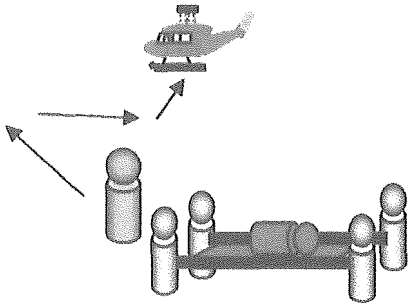
## 8) 着陸後

- (1) 機内自衛隊員の許可がでたら、受け持ち看護師は患者状態を把握し、リーダーに報告する。
- (2) 調整員は他メンバーに異常が無いことをリーダーに報告。
- (3) リーダーは患者状態把握、メンバー把握を行う。

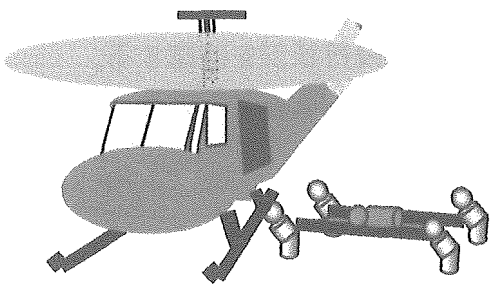
## 9) 搬出

- (1) 搬入時と同様に、指示に従い機内より安全に降る。  
(降りる際は必ず足元を確認してから、掴まりながらゆっくり降りる。決して飛び降りない。また、風圧に注意し頭上のローターに注意して行動する。)
- (2) 担架搬出時は搬入と同様にタイミングを合わせゆっくり移動していく。
- (3) 担架固定の右側(ひも)は、固定解除後、床の固定も解除し上方に避担架移動を妨げないようにする。

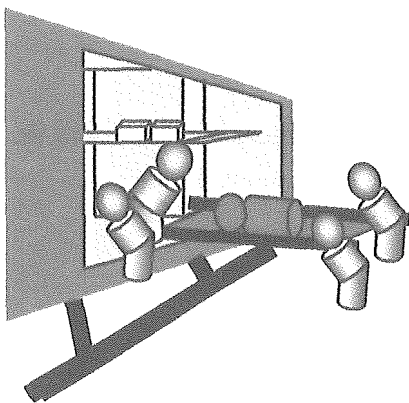
## UH-1 担架搬送と傷病者搬入の流れ



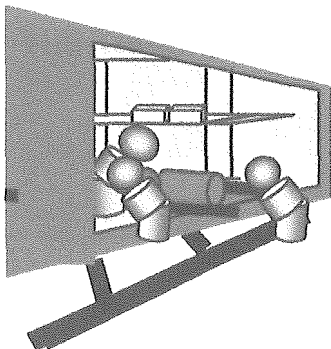
ヘリへのアプローチは傷病者の足側より進む。自衛隊誘導員の指示に従い行動する。ヘリのコックピットから見える位置から近づく。基本的にヘリの前方より進み、横に回り、垂直・又は45度の角度にて近づく。5名による搬送時は、中央の隊員は点滴を持ち患者の状態の観察・固定をしながら進む。リーダーはジェスチャーにて隊員達に指示をする。



ヘリの近くにきたら方向転換し傷病者の頭側より進む。自衛隊誘導員の指示に従い行動する。プロペラ付近では、頭を低くし風圧に注意し進む。点滴はクレンメを止め固定ベルトの下にいれ固定する。リーダーはジェスチャーで隊員達に指示をする。



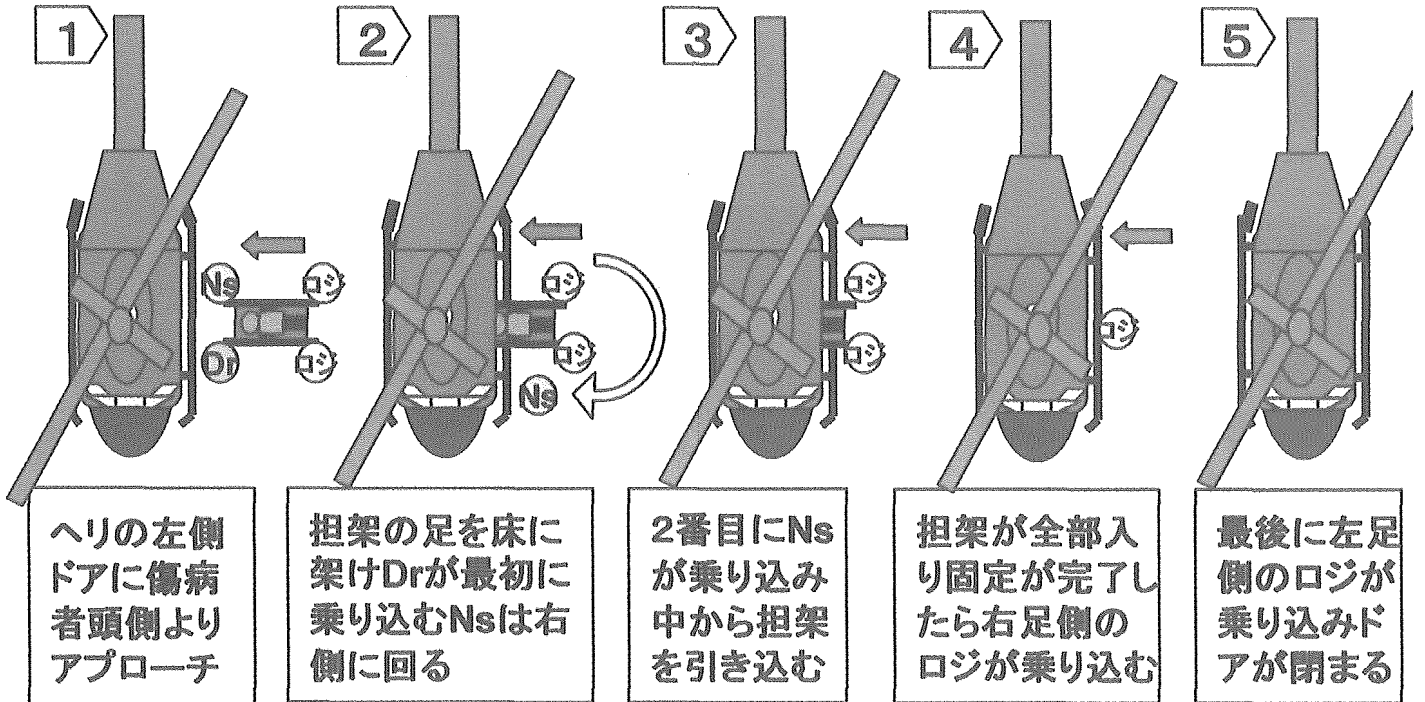
機体の床面に担架の足を架け、患者頭部を担当していた2人が機内へ乗り込む。担架を機内へ乗せるときは、担架の持ち手を機体にぶつけないようにする(装甲が薄いため穴が開きやすい)確実に担架の足を機内の床面に乗せる。足側の隊員は頭側の隊員が乗り込むまでその位置で動かさずに支える。機内に2名乗り込んだあと合図にて担架を中に移動させる。床を引き擦らず、医療器材の固定されている担架の下の段に担架を持ち上げながら引き込む。4箇所固定フックに掛ける。機内の中では自衛隊隊員の指示に従い行動する。



担架が全部機内に搬入し、4箇所の担架固定が完了したら、最後に支えていた隊員が乗り込む。担架固定終了し全員乗り込み終了後、自衛隊により両側の、ドアが閉められる。(担架の持ち手が偏って固定されるとドアが閉まらないので注意する)

# UH-1 担架の流れと隊員の動き

## 担架搬入



ヘリの左側  
ドアに傷病  
者頭側より  
アプローチ

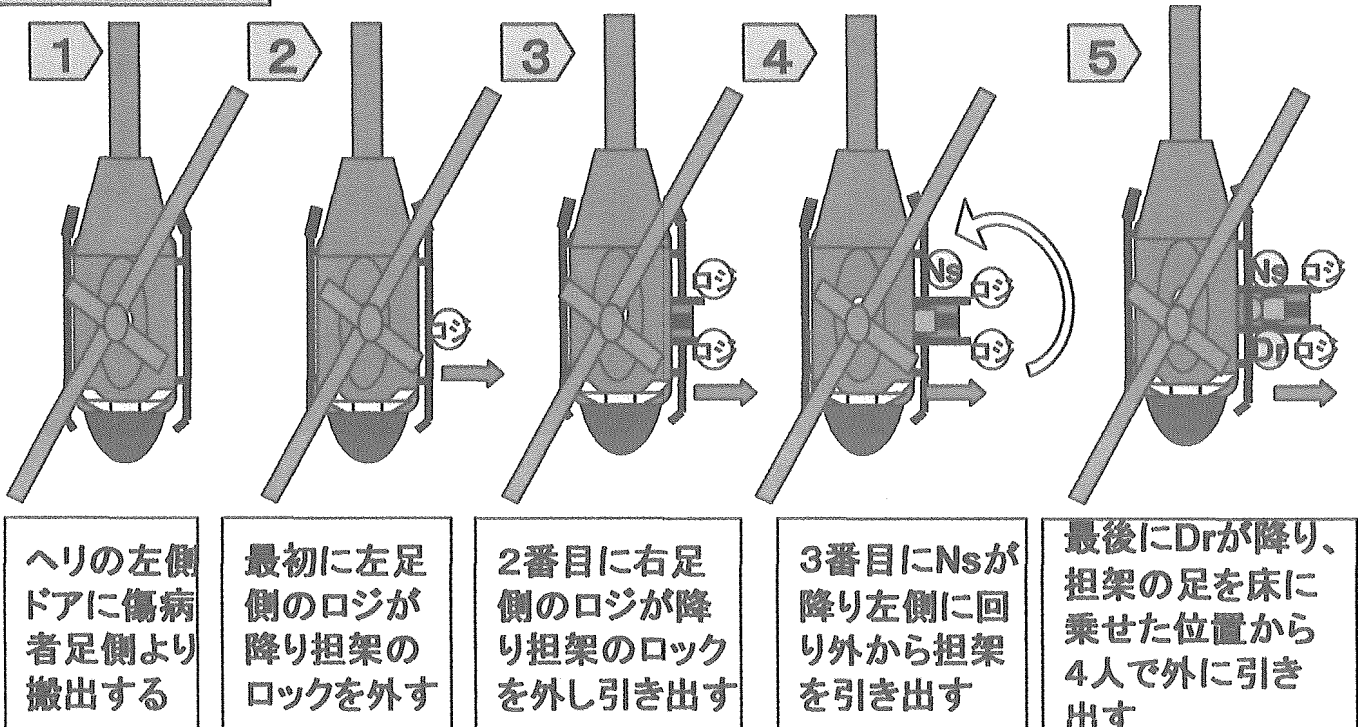
担架の足を床に  
架けDrが最初  
に乗り込むNsは右  
側に回る

2番目にNs  
が乗り込み  
中から担架  
を引き込む

担架が全部入  
り固定が完了し  
たら右足側の  
ロジが乗り込む

最後に左足  
側のロジが  
乗り込みド  
アが閉まる

## 担架搬出



ヘリの左側  
ドアに傷病  
者足側より  
搬出する

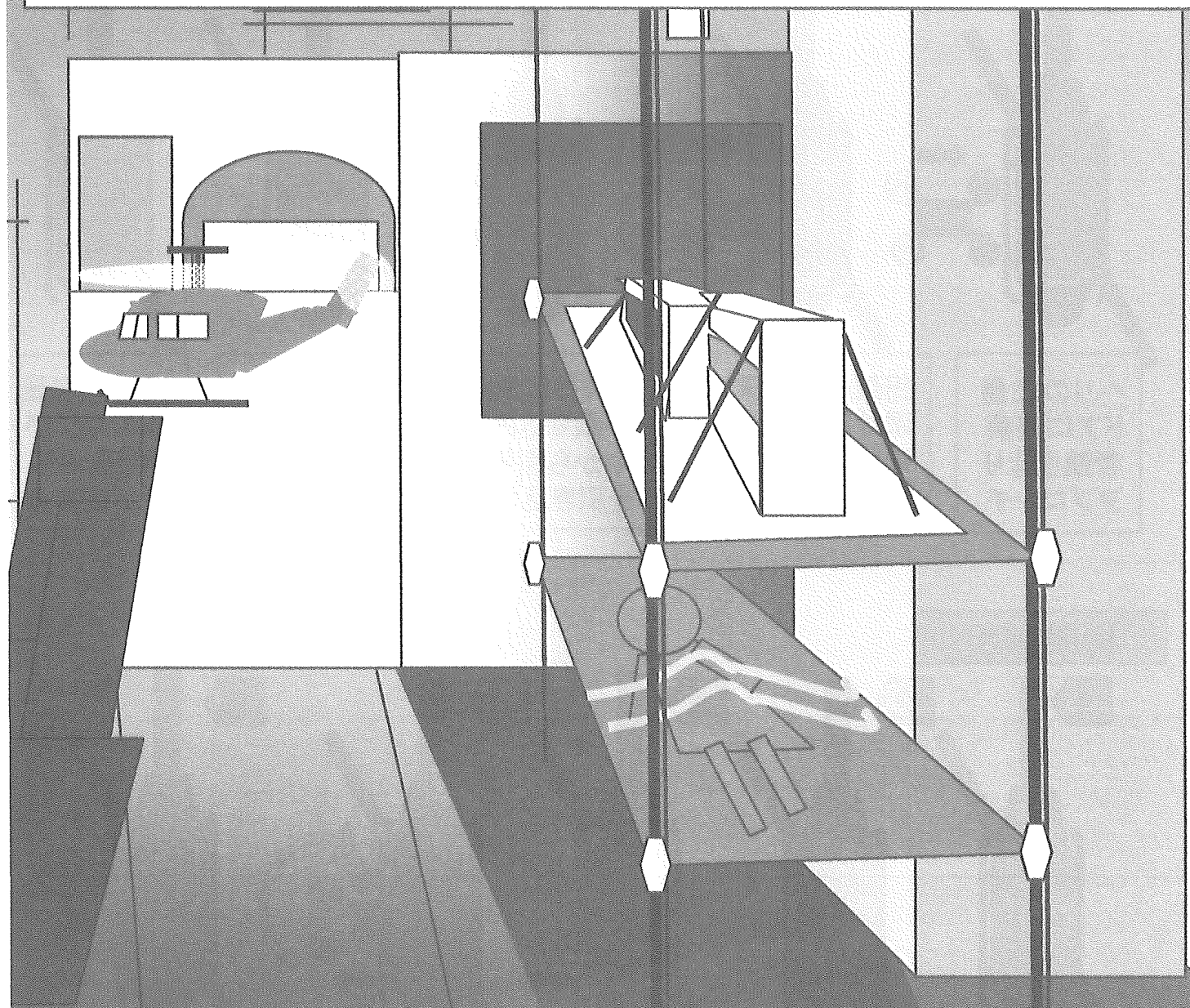
最初に左足  
側のロジが  
降り担架の  
ロックを外す

2番目に右足  
側のロジが降  
り担架のロッ  
クを外し引き  
出す

3番目にNsが  
降り左側に回  
り外から担架  
を引き出す

最後にDrが降り、  
担架の足を床に  
乗せた位置から  
4人で外に引き  
出す

# UH-1の医療資器材・担架配置







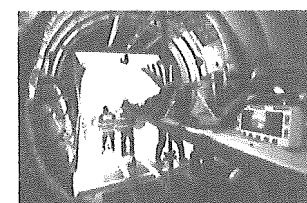
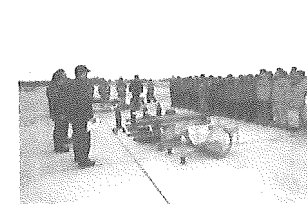


頭部は右側となるように担架を固定する。上段の医療資機材は一人用とし人工呼吸器を設置する。酸素ポンプは担架の下の床に横にして固定する。医療資機材のバッグも床に固定する。

医療資機材の配置・固定などは機内自衛隊と調整し指示に従って固定する。最終確認は自衛隊隊員が行う。

機内DMAT隊員の位置・自衛隊隊員の位置を考慮し配置を決定する。

# 広域搬送 航空機医療班 (DMAT) 活動基準

	リーダー (医師)	メンバー (看護師・調整員)	
I 航空機内患者積み込み前	<p>①医療班搭乗者名簿提出                      ②資器材リスト提出                      ③医療資器材の固定確認                      ④医療資器材の作動確認                      ⑤バッテリー充電確認                      ⑥酸素ボンベ残量の確認                      ⑦搭載資器材の運用指示</p> <p>※メンバーより報告を受け適宜指示する。</p> <p>※ リーダーが最終確認(ダブルチェック)を必ずする。</p> <p>確認状況に問題がなければ、機長に受け入れ可能であることを報告。場合によっては、機内自衛隊隊員(フライトエンジニア・ロードマスター)を介して情報交換する。</p> <p>事前に航空機内のオリエンテーションを受けておき、安全に活動できるように指示する。必要時、機内自衛隊隊員に確認をする。</p> <p>機内の安全・機内自衛隊員・医療班隊員の安全面を最優先とする。</p> <p>※機内環境                      騒音・揺れ・振動・気圧・スペース・採光などの問題があることを留意する。</p> <p>機内の触れてはいけない箇所(黄色ライン)の確認。</p> <p>準備完了後受け入れ前にミッション・役割分担・ブロックサインなど最終確認する。</p>	<p>①医療資器材の固定確認・報告                      ②医療資器材の作動確認・報告                      ③バッテリー充電確認・報告                      ④酸素ボンベ残量の確認・報告</p> <p>※リーダーの指示に従い担当部所・資器材の確認をチェックリストに従い実施し報告する。</p> <p>※ 固定に関しては機内自衛隊隊員(フライトエンジニア・ロードマスター)の指示のもと行う。</p> <p>※ 調整員は看護師の確認作業等の補助、リーダーのサポートに努める。</p> <p>資器材の数・充電状態の把握、酸素残量の把握をする。</p> <p>リーダーの指示のもと活動する。</p> <p>※ 酸素・電源は貴重なので無駄に消費しないように注意する。</p> <p>事前に航空機内のオリエンテーションを受けておき、安全に活動できるようにする。</p> <p>指示に従い行動し、個人行動はとらない。</p> <p>※機内環境                      騒音・揺れ・振動・気圧・スペース・採光などの問題があることを留意する。</p> <p>機内の触れてはいけない箇所(黄色ライン)の確認。</p> <p>準備完了後受け入れ前にミッション・役割分担・ブロックサインなど最終確認する。</p>	       

II  
航空機  
機内患者  
積み込み  
時

リーダー（医師）

- ①患者搭載者名簿引継ぎ
- ②患者医療情報の引継ぎ・評価
- ③担架固定場所の指示
- ④患者状態把握
- ⑤機長への患者情報の提供
- ⑥フライトプランの確認・伝達
- ⑦機内活動の指示

※自衛隊員の指示のもと、安全に留意し機外に出る。

※機外では、音・風圧・などあるため危険も伴う。引継ぎは短時間で済みます。

機外にて患者引継ぎを受ける。機内への搬入可否評価。搭乗者名簿を受けとる。

※SCUでの安定化の確認。処置の有無・ライン類の確認。機内に搬送するか最終決定し、重症度・レスピレーター・ドレーン等の位置に応じて担架固定場所を決定指示する。

※最後の患者搬送時に機内に戻り、全患者の搭載リスト照合・機内自衛隊隊員・機長に報告、フライトプランの確認。

医療資器材の作動確認、担架固定の確認をする。観察・処置などメンバーに指示し報告を受ける。

※基本的に各患者を周り確認をし、機内自衛隊隊員の近くにいる。

※全患者の状態を把握し、機長に報告。搭乗者名簿を照合する。場合によっては、機内自衛隊隊員（フライトエンジニア・ロードマスター）を介して情報交換する。

※患者の状態に応じ、可能であれば、フライト条件高度・時間など相談する。

※酸素・点滴・電力など消費の問題もあるため、離陸時間・到着時間など必ず確認し、調整する。

メンバー（看護師・調整員）

- ①患者医療情報の引継ぎ
- ②機内自衛隊隊員との連携
- ③誘導時の安全確保
- ④担架固定場所への搬送誘導
- ⑤担架固定状況の確認
- ⑥医療資器材の始動確認
- ⑦患者の処置・状態観察・記録
- ⑧リーダーへの報告

※リーダーの指示のもと機外にて患者引継ぎを受ける。カルテ・持参物品を受け取る。

※機内自衛隊隊員に、搬入の位置を伝達する。機内に乗り込む時は、足場に十分注意する。

※調整員は機内スロープ位置に立ち、安全確認に留意して搬送班を誘導する。一人目の搬入の際に搭乗者名簿（4名分）を機内自衛隊隊員に提出。

※看護師は機内固定位置に待ち、リーダーの指示に従い搬送班を誘導する。固定介助・確認をする。完了を調整員に報告。

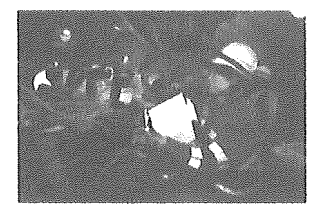
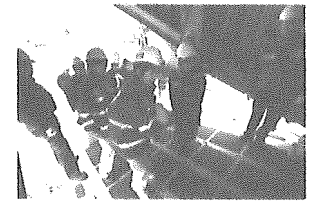
※調整員は固定完了をリーダーに報告。また、問題発生時などリーダーに報告する。（機内外を往復し調整役をする）

※固定に関しては機内自衛隊隊員（フライトエンジニア・ロードマスター）の指示のもと行う。

※機内では患者1名につき看護師1名が受け持つ。医療機器作動開始。バイタルサイン測定・カルテを記載する。適宜リーダーに報告する。

※患者に機内での音・揺れ・固定など環境面・機内での注意事項など説明し、精神面の配慮もする。

※リーダーの指示に従い、酸素・点滴・電力など調整する。



Ⅲ  
航空機  
離陸時

リーダー（医師）

- ①医療資機材固定の確認
- ②患者固定の確認
- ③患者状態把握
- ④機長への患者情報の提供
- ⑤自己の安全確認
- ⑥隊員の安全確認
- ⑦機内自衛隊隊員への報告

※ 離陸時の振動・揺れ・騒音について患者に説明を行う。  
 ※ メンバーより報告を受け、資機材固定状況を確認する。

※ バイタルの報告を受け、全患者の安定化の確認、離陸可能の判断を行う。必要時メンバーへ指示する。  
 機長へ患者情報提供を行う。機長へ離陸準備OKの最終報告を行う。

※ 離陸時の振動・揺れを考慮し患者を安全な状態で固定し、離陸時はシートベルト着用のまま患者を押える。

ドレーン・ルート類の確認

報告を受ける。ブロックサインで確認。

隊員全員のシートベルト装着を確認し、最後に自分が装着し、ロードマスターにシートベルトOKサインを送る。

※ 離陸時はGがかかるので注意する。

※ 自己の安全確認、シートベルトの着用。最終報告。

※ メンバーの安全確認。

※ 機内自衛隊隊員（フライトエンジニア・ロードマスター）の指示に従い、適宜メンバーに指示する。

メンバー（看護師・調整員）

- ①医療資機材固定の確認・報告
- ②患者固定の確認・報告
- ③患者説明
- ④患者を押える（固定）
- ⑤患者状態把握
- ⑥自己の安全確認
- ⑦安全確認報告

※ 資機材が散乱しないように固定を確認し、リーダーに報告する。  
 ※ 離陸時の振動・揺れ・騒音について患者に説明を行う。必ず傍にいてることを説明し、精神的フォローをする。

※ 離陸時の振動・揺れを考慮し患者を安全な状態で固定し、離陸時はシートベルト着用のまま患者を押える

※ バイタルサインの測定（モニタリング）

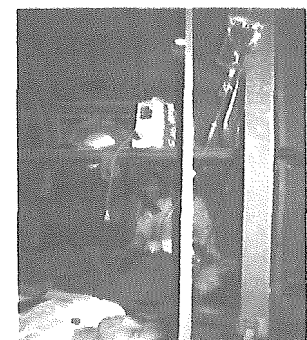
バイタルの確認をし、リーダーへ報告。必要時には指示を受ける。ブロックサインが有効である。

※ ドレーン・ルート類の確認・報告。ルートのみ・つっぱり等の確認。

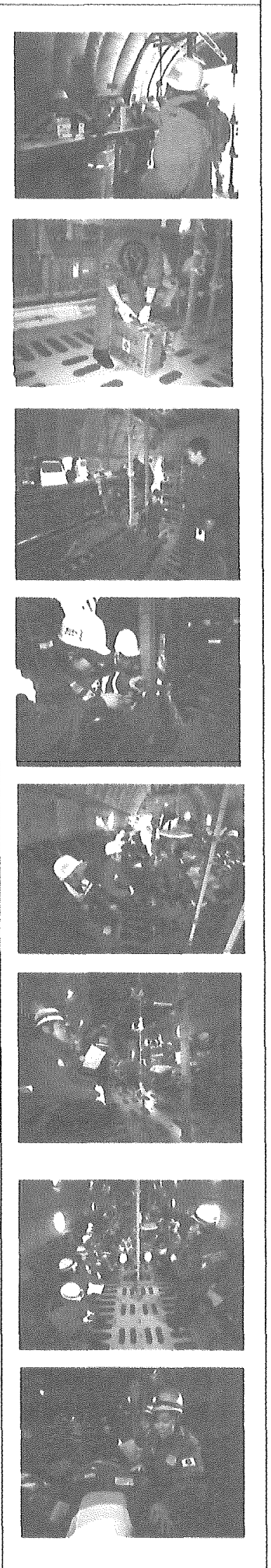
※ 離陸時はGがかかるので注意する。ペン類・カルテなど飛び散らないようにその都度確認をする。

※ 自己の安全確認、シートベルトの着用。安全確認報告。

※ 機内自衛隊隊員（フライトエンジニア・ロードマスター）の指示に従い、リーダーの指示に従う。





	リーダー（医師）	メンバー（看護師・調整員）	
<b>IV</b> <b>飛行中</b>	<p>①患者観察・処置指示            ②カルテ記載内容確認            ③病態変化時対応、救急処置            ④活動中の安全確保            ⑤メンバーへの指示            ⑥機内自衛隊隊員との情報交換</p> <p>※機内自衛隊隊員（フライトエンジニア・ロードマスター）からシートベルト解除の指示を受け、メンバーに指示する。</p> <p>※安全に注意し活動を開始する。報告を受ける。            全体の状況把握し、適宜機長に患者情報を提供する。</p> <p>※活動時、ブロックサインを活用する。</p> <p>処置・物品等の移動など調整員に指示する。</p> <p>安定飛行時、各患者の状態を把握するためにラウンドする。</p> <p>重症患者または機首に位置し、機内自衛隊隊員と連絡が取れるようにする。            メンバーの活動を指示する。</p> <p>※機内環境            騒音・揺れ・振動・気圧・スペース・採光などの問題があることを留意し活動する。</p> <p>機内の安全・機内自衛隊隊員・医療班隊員の安全面を最優先とする。</p>	<p>①患者観察・報告            ②カルテ記載            ③病態変化時対応、救急処置            ④活動中の安全確保            ⑤リーダーへの報告</p> <p>※リーダーの指示に従い、シートベルトの解除。バイタルサイン測定、カルテ記載、処置を行う。基本的にABCの繰り返し。</p> <p>※活動時、ブロックサインを活用する。</p> <p>※自衛隊隊員（フライトエンジニア・ロードマスター）の機内管理下のもと活動を行い、指示に従う。リーダー指示に従い個人行動はとらない。</p> <p>※調整員は処置等の介助、資器材管理にあたる。</p> <p>※急激な揺れなどに対処できるように、物品はそのつど固定し、床などに放置しておかない。            移動時は必ず掴めるようにする。</p> <p>※機内環境            騒音・揺れ・振動・気圧・スペース・採光などの問題があることを留意し活動する。飛行機酔いにならないように適宜頭を上げ、座席等に座る。</p>	

航空自衛隊C1輸送機を用いた

DMA T活動訓練資料（航空自衛隊入間基地）

事 務 連 絡  
平成18年 1月30日

DMAT研修受講施設 施設長 殿

独立行政法人国立病院機構 災害医療センター  
院長 辺 見 弘

日本DMAT隊員養成研修におけるC-1輸送機を使った広域医療搬送実地研修  
受講者の募集について

平素より災害派遣医療チーム(DMAT)研修事業につきましてご理解ご協力いただき感謝申し上げます。

日本DMAT隊員養成研修につきましては、おかげさまで貴施設の医療チームの研修を修了しているところです。今般、研修プログラムで行えませんでした、自衛隊実機(C-1輸送機)を使用した航空機内での活動研修を下記により実施いたしますのでお知らせいたします。

急な日程で大変ご迷惑をおかけいたしますが、既に受講された方の参加が可能でしたらお申し込みくださるようお願い申し上げます。

記

1. 目 的 DMATにおける自衛隊航空機を用いた広域医療搬送研修

2. 日 時 平成18年 2月28日(火) 7:15~12:40

3. 場 所 航空自衛隊入間基地

4. 集合場所及び時間

1) 集合場所 東京都立川市緑町3256 国立病院機構 災害医療センター

集合時間 7:15 4階研修室 【当院よりバスで移動】

※集合時間は厳守してください。

5. 参加者

日本DMAT隊員養成研修受講者で実機を使用した航空機内活動の研修を行っていない者。

(チーム全員での参加が望ましいですが、受講者中参加できる方でも結構です。)

6. 参加可能人数 約50名 (10チーム)

(今後も同様の研修を数回計画できる予定です。)

## 7. 参加申し込み

災害医療センターDMAT研修事務局まで、別紙「参加申込書」により、メール、FAX等でお申込みください。

## 8. 締め切り

参加可能人員(10チーム 50名)になりしだい締め切らせていただきます。

## 9. 旅費等の費用について

旅費、宿泊費については申し訳ございませんが参加者(参加施設)負担でお願いいたします。

## 10. 研修プログラムについて

当該自衛隊実機を使用した航空機内での患者搬送の研修は、当初DMAT隊員養成研修において必須科目としていました。しかしながら、プログラム日程での調整が付かなかったこと及び遠方施設からの研修参加は、チーム全員の日程調整、費用の両面で困難を生じることから、日本DMAT隊員養成研修受講修了者は講義での把握をもって修得したこととし、今般の実機研修に参加されなくても修了書を発行することとなりました。

今般の自衛隊実機(C-1)を使用する研修は、体験しておくことにより実際の災害発生時、広域医療搬送が実施されDMATが航空機内での医療を担うにあたり大きな意義のあることと考えます。

## 11. 研修内容

- 1) 航空搬送の流れ、全体的な確認事項
- 2) C-1医療資器材、傷病者配置固定位置展示
- 3) 積み込み訓練
- 4) 飛行中を想定した機内活動訓練
- 5) 訓練検証

## 12. その他

詳細については、参加決定施設へ後日連絡をいたします。

研修に関するご質問等は、下記、DMAT研修事務局までお願いいたします。

### お問い合わせ先

〒190-0014 東京都立川市緑町3256

独立行政法人国立病院機構 災害医療センター

DMAT研修事務局 担当 楠

TEL 042-526-5511(内線1411) fax 042-526-5535

email : dmat@tdmc.hosp.go.jp

## DMAT研修

### 自衛隊航空機実機を使用した広域航空搬送研修

日 時 平成18年2月28日

研修場所 航空自衛隊入間基地

使用航空機 C-1 1機

研修参加者 10チーム(50名)

7:15				災害医療センター集合(4階研修室)
7:30	—	8:50	80分	バスにて入間基地へ出発 車中、研修内容説明
8:50	—	9:00	10分	移動
9:00	—	9:15	15分	オリエンテーション
9:15	—	9:25	10分	移動
9:25	—	9:35	10分	担架搬送注意事項説明
9:35	—	9:45	10分	C-1 機内準備訓練(患者搭載前、医療機器等固定)
9:45	—	10:15	30分	C-1 積み込み訓練(Aグループ 25名)
10:15	—	10:25	10分	C-1 離陸前チェック・飛行中活動訓練(エンジン回転前) 裏で、Bグループ担架搬送注意事項説明、患者情報申し送り訓練
10:25	—	10:30	5分	グループ入れ替え
10:30	—	10:40	10分	C-1 機内準備訓練(患者搭載前、医療機器等固定)
10:40	—	11:10	30分	C-1 積み込み訓練(Bグループ 25名) 裏で、Aグループ患者情報申し送り訓練
11:10	—	11:20	10分	C-1 離陸前チェック・飛行中活動訓練(エンジン回転前)
11:20	—	11:50	30分	C-1 機内環境体験訓練(エンジン運転地上走行) 25名ずつ、入れ替えて2回実施
11:50	—	12:00	10分	移動
12:00	—	12:30	30分	反省会
12:30	—	12:40	10分	移動
12:40				解散

## 入間基地 C 1 訓練の概要

### 訓練内容

- A) 機材の固定訓練
- B) 傷病者搭載訓練
- C) 機内活動訓練

### 本日の訓練の目的

- 1, 医療資器材の固定、酸素固定、吸引器や除細動器の固定が正しくできる
- 2, SCU から機体への傷病者の運び込み、申し送り、傷病者固定ができる
- 3, タキシング、離陸、安定飛行中、着陸態勢、着陸後の機内活動が行える
- 4, 情報伝達（たとえば搭乗者リスト、自衛隊あるいは機長への患者情報の事前提供）など、適切に行える
- 5, 機内活動の限界について、タキシング環境（騒音、振動、照度、加速度、ベルト着用）にて体験する

### 1, 医療資器材固定訓練（2班合同）

#### ○医療資器材の固定

バックボードにベルトを用いて医療資器材を固定、酸素ボンベも固定

### 2, 傷病者搭載訓練（班別）

（C 1 の後方と機外を使用）

一つの班をさらに二つの A, B チームに分ける。

#### ○A チーム：搬入するためのチーム（看護師 1 名・搬送班 4 名役。模擬患者 1）

レスキューカーへの安全な搭載

レスキューカーからの安全な卸し

担架載せ替え

担架の機内搬入と担架設置

移動・搬入・固定の安全確認
---------------

#### ○B チーム：機内にて受け入れるチーム（医師 1, 看護師 4、事務官 1）を想定

傷病者搭載前チェックリスト

医師：「傷病者搭載前確認を行う、医療資器材の固定確認」  
看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応。（事務官はチェックリストを記録）  
医師：「各医療資器材の作働確認」  
看護師：電源が入り正常に作動することを確認した後電源を切り、チェックよしと言葉とサインで呼応。（事務官はチェックリストを記録）  
医師：「酸素ボンベ残量確認」  
看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応  
医師：ロードマスターに受け入れ準備が完了したことを報告  
ロードマスター：機長に報告？〇〇はSCUに対して傷病者搭載指示を連絡。

### 傷病者搭載

医師はまず搭乗者名簿を受け取り傷病者の概要と重症度を把握するように努める。これらの情報に基づき搭載担架場所を決定する。

搬送班4名と看護師1名は、傷病者を順次レスキューカーにてC1（CH47）近傍に搬送し、搬送班4名は担架受け渡し要領のごとく担架に乗せ替える。

搬送班はロードマスターの援助のもと、指示された搭載場所に担架を固定する。この際に医師は傷病者氏名を確認し、計画された搭載場所と異なっていないか確認する。

看護師は、該当する傷病者の受け持ちとなるため、搬送班看護師より申し送りを受ける。

事務官は医師と連携して傷病者担架が確実に固定されることを確認する

医師はロードマスターあるいは機長に対し傷病者の医療情報を提供し、高度制限等のリクエストがあれば行う。

医療資器材・傷病者固定の安全確認
------------------

### 3. 機内活動訓練

#### 積み込み後チェックリスト

医師：患者の担架固定  
看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応  
医師：患者バイタルチェック  
看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応しカルテに記載し着席、シートベ

ルトを締める

医師：最終準備が出来たことをロードマスターに報告

#### 離陸前チェックリスト（タキシング中に施行）

医師：酸素、モニター、患者固定の最終確認

看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応

医師：バイタルサインの確認

看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応

医師：ルート類の確認

看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応

医師：自己のシートベルト確認

看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応

医師：患者を押さえる姿勢

看護師：了解

#### 水平飛行（ロードマスターより離席の許可が出てから）

医師：バイタルサインの確認

看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応

#### 着陸態勢時

医師：酸素、モニター、医療資器材、患者固定の最終確認

看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応

医師：バイタルサインの確認

看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応

医師：ルート類の確認

看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応

医師：自己のシートベルト確認

看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応

医師：患者を押さえる姿勢

看護師：了解

#### 搬出時



着陸後

医師：最終バイタルの確認

看護師：チェックよしと言葉とサインで呼応しカルテ記載

機体が停止し後部ドアが開く

医師：受け入れチームと搬出方法と収容救急車の打ち合わせ

搬出

看護師：申し送り

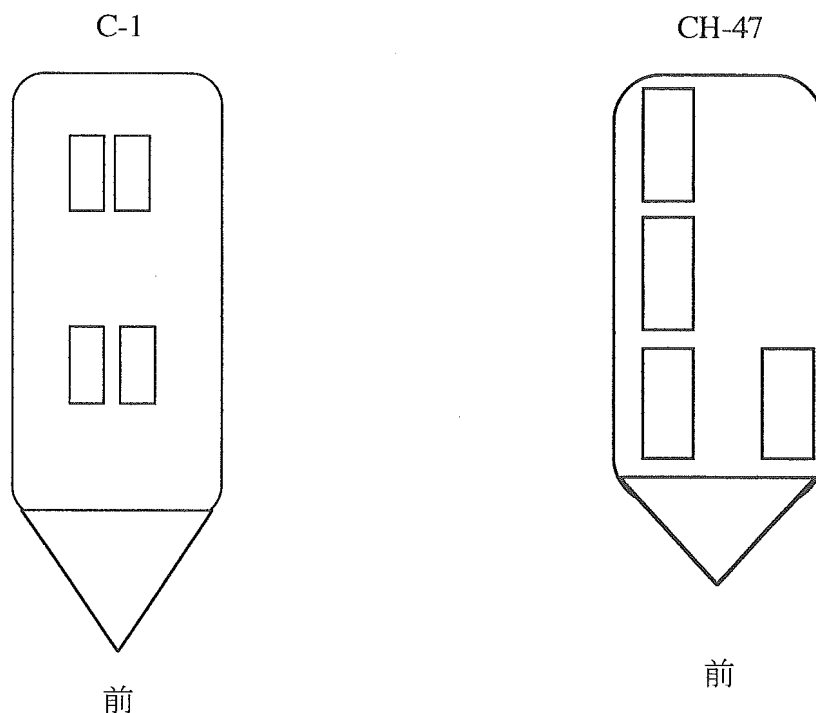
# 機内活動マニュアル

## 内容

- 1, 搭載前の準備・医療機器の固定
- 2, 機内への搭載と患者固定
- 3, 機内活動
  - A, スタッフの配置と役割分担
  - B, 機内の医療の制限
  - C, 機内医療活動
  - D, 機内活動のポイント

## 1, 搭載前の準備・医療機器の固定

### ○傷病者の配置と担架の準備



- 上記の通りそれぞれ4名の傷病者を収容できるように担架を配置する。
- 担架は2段とし、上段に医療資器材を搭載したバックボードを、下段に傷病者を固定する
- 医療器材の固定のためのバックボードはC-1では2枚（1枚で2人分の医療資器材を固定）、CH47では4枚使用する。
- バックボードに固定すべき医療資器材はモニター、輸液ポンプ、人工呼吸器であり、ベルトやベルクロバンドにて固定する。固定の際は、操作性や視認性を十分考慮して固定する。
- 吸引器や除細動器は常に使用可能なようにイス上に固定する。
- 酸素ボンベや医療資器材バッグは支柱あるいは床に確実に固定する。